

来たよ、僕ら労働者

つづいて、受講生が仙台、盛岡地本にいた当時に闘われた動労千葉の「81・3ジェット闘争」の記録映画が上映され、日本の労働運動史上でも画期的なストライキについて、全員が真剣なまなざしでくいているように見つめていました。

昼食後、第二科目として「動労千葉の20年史」をテーマに桜沢特別執行委員から講演をうけました。

動労千葉20年間の闘いの歴史を紹介し、81・3ジェットストを闘いぬける強固な組織をつくりあげたものは、正しい路線のもとで常に労働組合の原則を曲げずに闘いぬいてきたこと、とりわけ、動労「本部」革マルの組織破壊攻撃と勝利的に闘

動労千葉20年の歴史を学習

ただちに講義に入り、第一科目「労働組合とは」について、片岡執行委員から講演をうけました。

片岡講師は、資本家階級と労働者階級の非和解的関係について述べ、労働者の権利を保障する法令について解説しました。そして今日、第二の定員法ともいべき首切り攻撃を前にして「労働組合」の必要性はよりましていることを明らかにしました。



若し諸君に期待する
—中野委員長—

元気な若者を前に、中野委員長は「諸君達は仙台、盛岡で三年間苦勞してきたが、これからの生活に必ずやプラスになることと思う。今日の情勢の中で学習することによつ

7.19組合員教育開かる

七月十九日、動力車会館において「組合員教育」が行われました。今回の教育は、一九七八年に国鉄に入社し、仙台局、盛岡局に配属され、三年後に千葉局に帰り、動労千葉に結集した「53年度予科生」を対象に行われ、二四名が参加し熱心に学習しました。

いつつ、独自の反合・運転保安闘争を闘い、なによりも労農連帯の旗のもと、三里塚闘争を闘ってきたことにある点を鮮明にしました。

健闘を誓い合う

組合員教育の最後に、水野副委員長から「国鉄労働運動破壊攻撃とわれわれの任務」と題する講演をうけました。

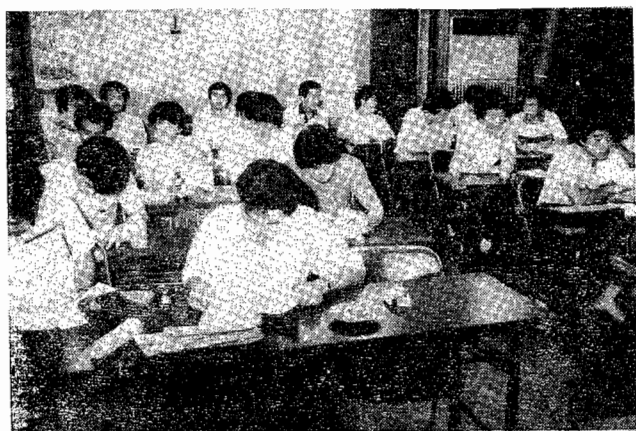
水野講師は、「余剰人員対策」「分割・民営化」をはじめとする最近の国鉄をめぐる状況について明らかにしました。

そして、こうした攻撃に対する他労組の動向、とりわけ「再建フォーラム」運動なる「骨身を削って働き、自民党と共闘する」反階級的路線に転落した動労「本部」革マルの狙いを暴露しました。

そのうえで「分割・民営化」「余剰人員」攻撃が国鉄労働運動の解体をねらった攻撃であることの本質を明らかにし、千葉局における合理化・職場規律攻撃の実態と動労千葉の方針について述べました。

五時間に及ぶ講義に真剣に耳をかたむけ、全員がレポートを提出し交流会に移りました。

乾杯のあと、久しぶりに一同に会した仲間が仙台、盛岡当時の思い出話や職場、仲間の状況などにぎやかに語り合い、予定をオーバーして十八時に今後の健闘を誓って散会しました。



組合員が熱心に学習する様子

中野委員長があいさつする様子(右上)

日刊 動労千葉

84. 7. 24

No. 1698

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)五三五六(公衆)〇四七二(22)七二〇七